



拙著「貨幣ト價值」ニ對スル福田博士ノ批評ニ答フ

左右田, 喜一郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 7(6):839-852

(Issue Date)

1909-12

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051483>



拙著「貨幣ト價值」ニ對スル福田博士

ノ批評ニ答フ

在伯林

ドクトル、デル、スター
ツグ井センシアフト

左右田喜一郎

拙著「信用券貨幣論」ニ對シテ一再ナラズ批評ノ筆ヲ染メラレタル福田博士ハ今回ノ小著 Geld und Wert ニ對シテモ早速本誌第七卷第三號(明治四十二年九月一日發行)ニ長文ノ批評ヲ公表セラレタ、自分ハ唯之ヲ光榮ニ思フト云フヨリ以外ニ感謝スベキ所以ヲ知ラナイモノデアル。就テハ左ニ同批評文ニ表ハレタル論難ノ個所二三ニ對シテ自分ノ主張ヲ明ニシ、一ハ以テ福田博士ノ厚意ニ酬ヒ一ハ以テ將來ノ評家——モシ期待スルコトヲ許サルレバ——ノ爲メニ備ヘ度イ。

博士ノ批評ハ拙著ノ前半 Kritischer Teil 丈ニ關シテ居ルノデ自分ノ希望ヲ包マズニ申サバ寧ロ後半 Positiver Teil ニ對シテ充分ノ批評ガ願ヒタカツタノデアル。何レ後日何等カノ機會ニ伺フヲ得ンコトヲ希望スル。

博士ハ大體左ノ三點カラ攻撃セラレテ居ル、即チ

- 一、本篇ノ Disposition ハ甚ダ妥當ヲ缺イテ居ルトイフコト、
 - 二、二十六頁ノ價值尺度論攻撃ハ「無理」デアルトイフコト、
 - 三、四十七、八兩頁ニ亘ル脚註ニ於ケル支拂要具論攻撃ハ非論理的デ且ツ引用ノ例ハ「歴史ノ事實ヲ無視シ」テ居ルトイフコト、
- 今之ノ三點ニ對シテ順々ニ辯解シテ見度イ。

一、本篇ノ Disposition ニ對スル攻撃ハ自分ハ一々御尤ト承認セザルヲ得ヌ、從フテ辯解ハセヌ、最モ本篇ノ Entstehungsgeschichte ヲ申述ブレバ成ル程ト首肯シテ下サルコト、信ジテハ居ルガ之ハ一私人トシテノ福田博士ニ對シテ云ヒ得ルコトデ一評家トシテ立タレタル福田博士ニ對シテ云フベキ限りデナイ、從フテ此ノ攻撃ハ甘受シ併セテ「讀者虛待」ノ罪ヲ得タルニ對シテ謹デ大方ニ謝スル、唯自分ハ本篇ニヨツテ少シデモ第二篇ノ了解ニ便ナラシメ自分ノ私カニ重キヲ置イテル第三章ノ主張ガ之ニヨツテ大略了解セラル、コトアラバ著者トシテ自分ノ希望ハ即チ足リタモノトシテヨイノデアル、第一篇ノ批評トシテ此ノ第三章ニ對シテ何等

ノ言ヲ福田博士カラ聞クコトヲ得ザリシハ自分ノ私カニ遺憾トスル所デアツタ。

二、價值尺度論攻撃ハ「少シ無理」ダトイフ批評ニ對シテハ一言辯解シタイ、若シ僕ノ記憶ニシテ誤マラズンバ福田博士ノ尺度論辯護ハ正當ノ意味ニ於ケル辯護デアツテ尺度論ソノモノデハナイ、モシ尺度論者ガ福田博士ト同様ノ説ヲ立ツルナラバ僕ハ夫レハ既ニ尺度論者デハナイノデアルト云ヒタイ、即チ尺度論者ハ博士ノ言ヲ籍リテ曰ヘバ「二個ノ卓、二個ノ帽子ト云フ」一ツノ物トシテ評價シ一個モ二個モ「價值評量」ノ上ニ於テハ Einheit デアツテ Vielheit デハナイ」トハ主張セヌノデアル、少クトモ僕ノ記憶スル範圍内ニ於テハ尺度論者ハ僕ガ本論ニ述ベタ主意ニ於テ一個ノ物、二個ノ物ニ對シテ評價スベキモノナリト主張シテ居ルト思フ、從テ福田博士ノ云フ意義ニ於テナラバ之ヲ尺度ト呼ブベキカ又ハ之ヲ「客觀的表彰」ト呼ブベキカハ唯言葉ノ争ヒニ過ギヌノデアツテ、福田博士ト僕トハ一致シタル土臺ノ上ニ立ツテ用語ノ選擇ニ付イテ相談スルト云フ態度ヲコソ取り得レ、反對ノ地位ニ立ツテ批評シ合フト云フコトハ出來ヌノデアル、此ノ一項ノ論ノ進メ方ハ、疑問ヲ起シ易カラシムルモノト見エテ、坂西教授モ亦福田博士ト全ク同ジ質問

ヲ發セラレタ。其ノ時分ニモ同様ニ答ヘタノデアアル、曰ク元來尺度論ナルモノハ福田博士ヤ坂西教授ノ曰ハル、如ク深ク考ヘタ說デハナイノデアアル、尺度論者ノ意中ニ於テハ三尺ノ十倍ハ三十尺ト云フ様ニ「物差デ測ツタ様ニ一定不動ノ標準ヲ價值ト云フコトニ求メントシタノデアツテ、其ノ一定不動ト云フコト其ノ事ヲ價值ノTiebetトシテノ對象ノ個數ニ結ビ付ケルト云フコトガ、其ノ論ノ大前提デアルコトヲ忘レテハナラス、若シ此ノ結ビ付ケガナイト云フナラハ夫レハ既ニ尺度論デハナイノデ、僕ガ本著第十二頁以下ニ entwickelt シタル論旨ト同様ニナツテシマウノデアアル、サレバ福田博士ノ云フ意義ニ於テ尺度論ヲ辯護シテハ如何ト云フコトハ問題ニナリ得ルケレドモ、福田博士ノ云フ意義ニ於テノ尺度論ハ存在スルカト云ヘバ自分ハ淺學寡聞ニシテ未ダ是アルヲ知ラズト申スヨリ外ハナイノデアアル、

三、支拂要具論ニ關スル僕ノ主張ニ對スル博士ノ批評ハ或ハ僕ノ意見ガ博士ニ充分了解セラレザリシヨリ起リシ結果ニハ非ズヤト思ハル、節モナイデハナイ、殊ニ僕ガ主張シテ居ル理由ヲ以テ逆ニ僕ヲ攻撃シテ居ラル、個處モ二三見受

ケルカラ茲ニ本著四十七、八頁ノ脚註ノ意ヲモウ一度述ベテ僕ヲ充分ニ了解シテ
貰フ資料トシ度イ、

本著ニモ明言シタル如クニ貨幣ト云フモノ、起源ヲ歴史的ニ論ズルニ當ツテ
ハ其ノ最初ノ職分トシテ支拂要具ガ先ヅ第一ニ重要ノモノデアツタトイフ論ハ
今日ノ經濟史、法制史ノ研究ノ狀態デ之ヲ判斷スレハ先ヅ然フデアツタロウト云
フヨリ以上ハ何人モ言ヒ得ナイ、而シテ此ノ Wahrscheinlichkeit ハ Geldstoff ノ上ニ於テ
スラ云ヒ得ルノデアアル、併シ之ヲ確ムルコトハ茲デハ史家ニ任カシテ von den

“ entwicklungsgeschichtlichen ” Tatsachen der einzelnen Geldgestalten reden wir hier gar nicht ”
ル即チ福田博士ノ言ヲ籍リテ曰ヘバ貨幣ナルモノ、發生ニツイテ史實的デナク
begrifflich ニ研究シタイノデアアル、本著ニモ明カニ斷ツタ如クニ予ハ初メニ支拂要
具トシテ用キラレタル物件ガ(普通ノ用語ニ從ツテ曰ヘバ)後ニ價值尺度、交換用具
云々トナツタコトモアルト云フ事實ヲ決シテ非認シハシナイノデ、要スルニ問題
ハ左ノ三點ニ歸着スルノデアアル、即チ

(1) アル物件ガ支拂用具トシテ用キララル、トキハソノ物件ガ支拂用具トシテ用

キラル、トノ故ヲ以テ貨幣ト稱セラレザルベカラザルカ、

(2) 支拂用具トシテノ「職分」ハ貨幣ノ他ノ職分ニ對シテ不可缺ノ論理的、前提ヲ形成スルカ、及ビ

(3) 一步ヲ讓ツテ支拂用具ガ貨幣ノ職分ナリトスレバソハ貨幣ノ職分ト云フモノヲ抑々論ズルトキニ其ノ重要ナル一部分トシテ論ゼザルベカラザルカ、ト云フノデアル博士ハ此ノ三點ニ對シテ僕ト全ク反對ノ態度ヲ採リ之ヲ實證セラル、ナラバ貨幣ノ純理及歴史研究上容易ナラヌ結果ヲ惹起スルニ足ルベキ大問題ヲ生ズ可キデアル、從フテ僕ハ非常ノ興味ヲ以テ之ヲ讀ムノデアル、

博士ハ第一問ニ對シテハ「一方的仕拂ト云フコトハ法律上ノ事實タルト共ニ經濟上ノ事實デアル」仕拂ノ要具ト云フノガ何故法律上ノ貨幣タルニ止マツテ經濟上ノ貨幣タラザルカト云フ答ヘト質問トヲ發シテ其ノ態度ヲ明カニシテ居ラルルガ、依ツテ思フニ本著ノ末章貨幣ト價值及ビ經濟學上ノ Grundgesetze ナル一章ニ對シテハ恐クハ僕ハ博士ヲ論敵ノ一人トシテ迎ヘネバナラヌ運命ニ至ルデアロウ、此ノ一問ニ對シテ博士ハ「著者ニ於テ説明シテ呉レ」ヌト云ハル、コトハ僕ノ甚

ダシク不滿ニ思フ所デ僕ハ自分ノ積リデハ全篇ヲ舉ケテ説明シテ居ル積リデア
ル、而シテ第二問ガ解釋出來レバ從フテ第三問ト同時ニ此ノ第一問モ解決セラル
ベキ性質ノモノデアルカラ中心問題ハ第二問ニアリト云フコトガ出來ル、

諸テ第二問ニ對シテ博士ハ「個々貨幣物件ガ貨幣トナツタ順序ヲ云フノデハナ
イ」抑々貨幣ナルモノ、發生ニツイテイフノデ「アルト曰ハレテ居ル、此ハ他ノ支拂
用具論者ト甚シク其ノ趣キヲ異ニシテ居ル點デアル、從來僕ガ學ンダル所ニヨル
ニ支拂要具論者ハ多クハ貨幣素材ノ發達ノ跡ヲ尋ネテ其ノ順序ヲ研究シ其ノ初
メニ貨幣ガ行ツタ所謂職分ナルモノヲ今モ繼承的ニ行フト云フ意義ニ於テ支拂
要具ハ今日デモ貨幣ノ職分デアルトイフノデアル、而シテ此ノ如キ論者ニ從ヘバ
支拂要具トシテ用キラレタルモノガ交換媒介價值標準云々トナル事モアロウシ
又交換ノ媒介價值ノ標準タルガ故ニ首長ガ一方的強制仕拂手段トシテソノ物件
ヲ納入セシメタト云フ事モアロウト云フ、併シ此ノ論ヲ内觀シテ見ルト同、一物件
ニ、ツイテ考ヘテモ、支拂要具トシテノ「Täget」ト價值標準、交換媒介云々トシテノ
「Täget」ト「begrifflich」ニ分離シテ考ヘ得ルコト、思フ、反之福田博士ノ如ク「個々ノ

調・貢物件ニツイテ云フノデナク調貢其ノ事カラ貨幣ガ發生シタト「主張スルハ一方的仕拂手段即貨幣タルカ、又ハ」調貢其ノ事カラト云フ句ト「貨幣ガ發生シタ」ト云フ句トノ間ニ時竝ニ論理上ノ距離ガアリトスレバ其ノ間ニ連鎖ガナケレバナラヌ、而シテ其ノ連鎖ハ切ツテモ切レヌ關係ノモノデナケレバナラヌ、從ツテ福田博士ノ支拂要具論ハ他ノ論者ト多ク趣キヲ異ニシテ支拂要具ト云フ Begriff カラ貨幣ノ Begriff ガ出タト云フノデアアル、僕ニ取ツテハ實ニ免カス可ラザル論敵デアアル、博士「我邦歴史ニ於テコソ一方的強制仕拂要具カラ貨幣ガ發生シタ理ヲ證明シ得ルト信ジテ居」ラレ猶他ノ機會ニ於テ論ゼラル、ト約束セラル、ハ實ニ斯問題ヲ研究スル後進者ニ取ツテ幸福千萬ノ事デアアル、望ムラクハ「他ノ機會ニ少ク論」ゼラル、ニ止マラズ大ニ論ジテ貫ヒタイノデアアル、モシ博士ニシテ此ノ約束ヲ履行セラレテ史實ノ上ノミナラズ論理上ヨリモ此ノ第二問即貨幣ノ支拂要具タル職分ガ他ノ貨幣ノ職分又ハ貨幣ソノモノヲ發生セシムル前提デアルト云フコトヲ證明セラレタナラバ、コハ容易ナラヌ貨幣學上ノ一大學理ノ發見ト云フ可キデアアル。

乍併少クトモ現今ノ狀態ニ於テハ僕ハ此ノ第二問ニハ充分ナル解答ヲ得テ居

ラスト信ジ、而シテ僕ノ主張ニシテ誤マラズンバ此ノ第二問ニハ否定的ノ態度ヲ採ルノガ論理上正當デアルト信ズルノデアアル、僕ヲシテ忌憚ナク云ハシムレハ一方的支拂要具ト云フコトハ決シテ貨幣ノ職分ニ對シテ論理的ノ前提ヲナスモノデナイ、モシ博士ノ云ハル、如クニ一方の支拂要具ト交換媒介及ビ——僕ノ慣用句ヲ引用スルヲ許サル、ナラバ——價值ノ客觀的表彰ナル貨幣ノ真正ナル職分トノ間ニ論理的ノ連鎖ガアリトスレバ、博士ガ *gar nicht logisch* ト云フ批評ヲ下サレタ僕ガ設ケタル積極的及消極的ノ二問、即チ

イ、何故ニ支拂要具タリシモノガ時ニ後ニ至ツテ價值尺度交換要具云々(凡テ一般的ノ用語ニ從フ)トシテ用キラレザルニ至ルコトアルカ

ロ、何故ニ嘗ツテ支拂要具タラザリシモノガ後ニ價值尺度又ハ交換要具トシ

テ用キラル、コトアリヤ

ノ間ニ答フルコトヲ得ネバナラスト信ズルノデアアル、此ノ場合ニ福田博士ノ曰ハル、如クニ此ノ設問ヲ以テ單ニ貨幣物件ニ關スルモノデアツテ貨幣ノ本質ニ關スルモノデナイトシ、此ノ所謂職分ト職分ノ *function* タル物件トノ間ニハ唯弛緩ナ

ル "Zufälligkeitverhältnis" が存在スルノミト解釋セラレテハ、博士ガ主張セラル、支拂要具論ハ其ノ根底カラ破壊セラル、カ、若シクハ又僕ノ主張ニ唯異ナツタル言ヒ顯シ方ヲ以テ合致シテシマウノデアル、何故ナレバ(第一)支拂要具ト云フ働キト其ノ之ヲ行フ物件トハ決シテ分離シテ考フルコトヲ許サヌモノデ(若シ分離シテ考フルコトヲ許ストセバソノ名ハ支拂要具デアツテモ其ノ實ハ僕ノ所謂貨幣ノ職分トナツテシマウカ若シクハ後者ヲ以テ其ノ前提トスルニ依ツテ初メテ可能的トナルノミデアル)(第二)モシ支拂要具ト云フコトガ他ノ貨幣ノ職分ニ對シテ論理的必然的前提ヲナスト云フノデアレバ、支拂要具ト云フ働キノ Träger タル物件ハ必ズ内的論理的關係ノ上カラ又ハ他ノ職分ノ Träger トナルト云フコトハ假令時ノ上デハ字通りニ瞬時デアツテモ判然トシテ而カモ嚴然トシテ觀取サルベキモノデナケレバナラヌ、然ルニ歷史上ノ幾多ノ事例ハ——論理上ハ勿論——積極的消極的ノ兩面カラ反對ヲ示シテ此ノ支拂要具ノ職分ト其ノ職分ノ Träger トハ唯全ク abgeschlossen ノモノトナツテ居ルコトヲ示スノミデアル、——博士ノ曰ハル、支拂要具ヲ抽象的ノ意義トシテ見ルトキニ之ヲ一物件ヨリ單純ニ他ノ物件ニ承

繼セシメ得ルトスル事ハ唯其ノ反面ノ事實ニ過ギヌ、此處ノ理ハ更ニ一層深ク考ヘラレンコトヲ希望スル——卽チ僕ハ第二問ニ於テ此ノ Abgeschlossenheit ノ性質ヲ有スルモノヲ論者ノ主張スル論理的因果及ビ連鎖ヲ以テ如何ニ説明シ得ルノカト問フノデアアル、更ニ他面カラ此ノ理ヲ説明スレバ、論者ノ云フ如ク a ト b トノ間ニ論理的必然的因果的ノ關係アリト歷史上ノ事實ニヨリテ説明セントシテモ a ガ a 以外ノモノトシテハ存在スル事が出來ヌトカ又 b 以外ノ他ノ e ヤ d トモナリ又時ニハ逆ニ c ヤ d ガ b トナルト云フ如キ關係ヲ考ヘ得ベシ、トシ又實際ニ之アリトスルナラバ、a ハ其レ自身ニノミ意味ヲ有スルモノカ、又ハ a b 間ノ關係ハ論理的ニ嚴正ニ檢スレバ(假令百歩ヲ讓ツテ歷史上必然的ナリトシテモ)唯偶然的ノモノデアルト云フコトガ、何故 *gar nicht logisch* ノ考ヘ様デアロウカ、此ノ場合ノ a b 間ノ關係ハ a c, a d 間ノ關係ヨリモ必然ノ連鎖ガソノ間ニアリトスルニハ更ニ他ノ理由ヲ要スルノデアアル(ヒュームノ因果律批評ト其ノ以後ノカントノ哲學說等ヲ思ヒ合ハスベシ)モシ又 a ト其ノ a ノ Träger トヲ分離シテ考ヘ得トシテ僕ノ主張ヲ破ラントシテモ a überhaupt カラ b ナリ c ナリ d ナリハ論理的因果ノ橋

ヲカケルニハ其ノ意義ノ根本ニハ a ノ Träger ヲ考ヘザルヲ得ザル底ノ a überhaupt
ト其ノ Träger überhaupt トノ間ニハ abgeschlossen ノ關係ガアルコトヲ無視シテハナ
ラヌ、從ツテ何等カノアル特定ノ Träger ノ上ニ夫レガ據フテ居ル、働キノ上デ、a カ
ラ b ヘノ必然的連鎖ヲ論理的ニ而シテ歴史的ニ説明スル事ハ反對論者ノ任務デ
アル、モシ又以上ニ述べタル意義以外ニ全ク異ナル論理ヲ以テ此ノ設問ヲ以テ飽
ク迄貨幣物件ニ關スル者ヨリ以外ニ了解出來ヌトシテ而シテ其ノ上、猶ホ貨幣本
質ノ研究上ニ於テ a ト b トノ間ニハ論理的ノ因果必然的ノ連鎖ガ意義トシテ存
在スルト云フノデアルナラバ、今日ノ經濟學者ガ論ズルヨリハ更ニ更ニ深キ根據
ヲ有サネバナラヌ、更ニ一步ヲ進メテ a b 間ニ論理的必然的關係アルニ止マラズ
a ハ b ノ不可缺ナル而シテ最モ多キ内容ヲ有スル素因ナリトスルナラバ(即チ第
二問ヨリ進ンデ第三問ヲ肯定スルナラバ) a ナシニハ b ハ考ヘ得ラレザルモノデ
ナクレバナラヌ、從ツテ a ナシニ b ヲ考ヘタ拙著ニ對シテハ以上ノ二觀點カラ根
本的ニ反證ヲ舉ゲテ示スコトハ評家ノ義務デアロウト信ズル、勿論僕ガ本著ニ於
テハ舉ゲタ例ハ現存シテ居ル學說ニ對シテ示シタノデアアルカラ夫等ノ論者ニ對

シテハ福田博士ノ云ハル、如クニ「承服シ難イ」コトハナイト思フ、從ツテ何故ニ「歴史ノ事實ヲ無視シタ」史實ニ遠イ論」ト云フ批評ヲ受ケザルベカラザルニ至ツタカハ僕全ク了解スルコトヲ得ヌ、例ヘバ形態論カラ曰フテ「徳川時代ノ米ハ仕拂要具デアツタガ價值ノ客觀的表彰デハ決シテナカツタ」トハ博士ノ曰ハル、通りデアル、夫故僕ハ云フノデアル、モシ仕拂要具ガ貨幣ノ職分デアルノミナラズ博士ガ曰フ如ク Money is what money does ナラバ徳川時代ノ米ハ貨幣ノ職分ヲ行フモノ即貨幣トナツテシマウコトハ論理上當然ノ結果デアル、博士ハ即チ此ノ論結ヲ許容セラ、ル、ノデアルカ、又今日デモ罰金ヲ支拂フコトヲ得ザル場合ニ體役ニ服スルノハ昔シノ庸ト同ジク、一方的支拂手段トシテ勞力ヲ用フルノデ此ノ場合ニモ前ノ論法ヲ以テスレバ勞力モ貨幣ト云ハネバナラヌ、僕ハ之ヲ貨幣ニ非ズト云フガ爲メニ引用シタ此ノ例ハ何故ニ承服シ難キ議論デアルカ、不肖ナル僕ニハ全ク了解スルコトヲ得ヌ、重ネテ御示教ヲ願イタイ、モシ此ノ場合ニ支拂要具ハ貨幣ノ唯一職分ニ非ズトシクナラバ、論點ヲ離レ他ノ普通貨幣學者ノイフ如ク貨幣職分ノ一ナリト云フナラバ此ノ「職分」ト他ノ職分トノ間ニ存スル論理的因果的 nacheinander

ノ連鎖ノミナラズ nebeneinander ノ切ツテモ切レヌ連鎖ノ存在セネバナラヌトイフ
論據ヲ示シテ吳レネバナラヌ。

其ノ他ノ例證ノ事ハ博士ハ或ハ僕ノ云フコトヲ誤解セラレタノデハナイカト
思ハル、疑ヒガアルカラ更ニ後日ノ機會ヲ待ツコト、スル

其ノ他ノ諸點ニ關シテ博士ノ態度ガ反對デアルコトハ博士ノ諸著書ヲ忠實ニ
研究シタルモノハ皆僕ト共ニ其ノ意ノ在ル所ヲ了解スルニ苦シカラズト思フ。

以上過去數年ニ於ケル博士ヨリ受ケタル學恩ノ大ナルヲ思ヒ兼ネテ余ガ今回
ノ小著ニ對シテモ亦自分ノ祖國ニ於テ先ヅ最初ニ懇篤ナル批評ヲ公ケニセラレ
タル厚意ニ酬ヒンガ爲メニ文辭ニ慣レザル身ヲ顧ミズ數言ヲ連ネタニ過ギヌ、偏
ニ博士ノ寛恕ヲ乞フ。(明治四十二年十月十八日於伯林記)